

「自己有用感」を高める学級経営

—行事・道徳・学級活動と日常指導にかかわりをもたせた取組—

生徒指導・教育相談班 高橋 正明（小学校教諭）

研究の概要

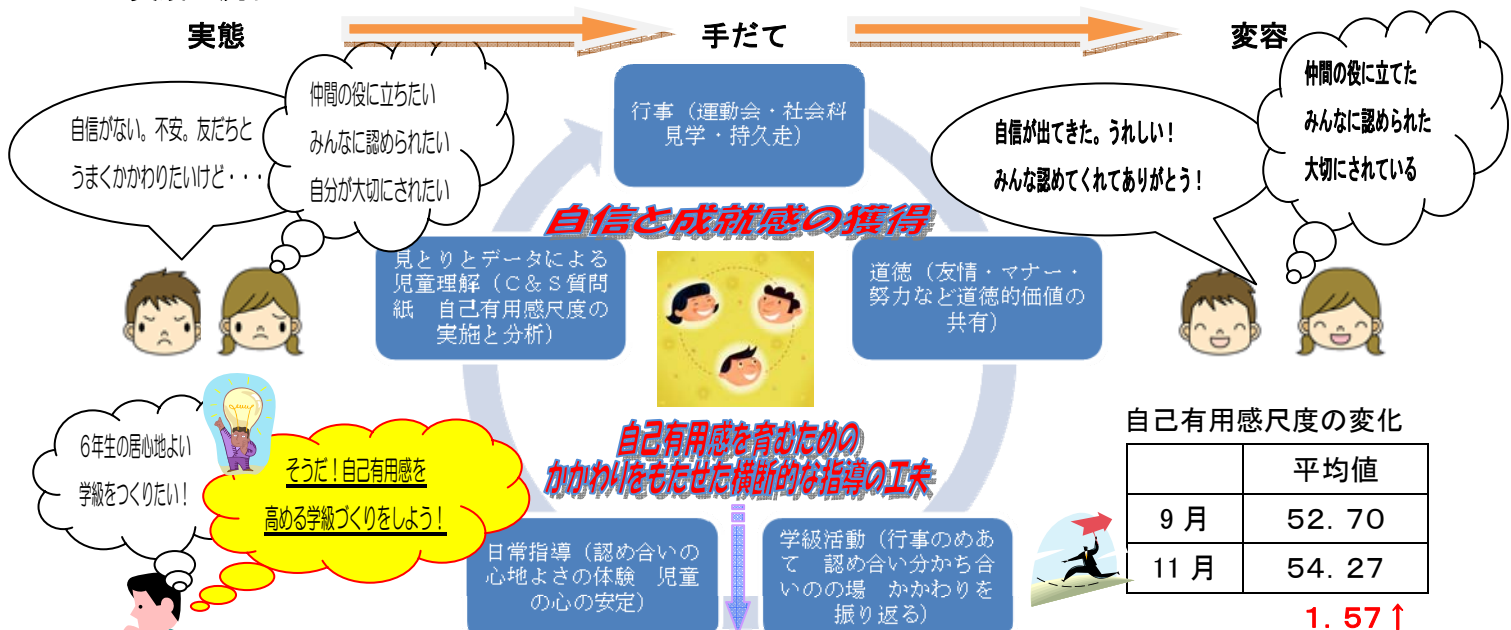
本研究は、教師の日常観察による主観的児童理解と併せて、自己有用感尺度などの客観的データから個と学級集団の実態をつかむ。そのうえで、児童の「自己有用感」の向上を目的として、日常指導と行事、学級活動、道徳を積極的にかかわらせながら、横断的に教育実践を行ったものである。

実践の流れ

実態

手だて

変容



かかわりをもたせた横断的な指導の例

- 行事のねらいに合った、道徳の授業を意図的に設定し、認め合える共通の価値を学級で見いだす。
(行事に向かう雰囲気づくり、その後の振り返りで、認め合いが促進される) 道徳と行事の相互補完関係
- 行事のめあて、振り返り、道徳で学んだことなどを、一枚のワークシートに記述させ、自分の心の動きや活動から、学級内での自己の生き方が見えてくる。
(シートを相互に読み合うことで、他者理解や分かち合いにつながる)
- 授業で学んだ認め合いの方法を日常指導にも取り入れる。メッセージカードの交流やサイコロトークの道具を揃えてコーナーを設けておく。
- 教室に掲示してある個人のめあての上に、行事や学級活動で頑張ったことを書いた付箋紙を「努力の証」として貼り、頑張りを認めていく。
(付箋紙が増えていくことで成就感や自信が高まり、次の行事や活動への意欲の向上につながる)
- 道徳で取り入れたSGE(構成的グループ・エンカウンター)「Xさんの手紙」を、学級活動でも行うことで、個と集団によりよく働きかける。
(集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶことにつながる) 等

児童33人中、20人の
自己有用感がアップ↑↑

成果と課題

「自己有用感」をキーワードとして、日常指導と行事、学級活動、道徳にかかわりをもたせながら横断的に指導することによって、児童が仲間と認め合い分かち合いながら、自信をつけ成就感を満ちし、居心地のよさを高めることができた。

実践を通して、児童相互の認め合い、分かち合いの姿に数多く出会うことができた。日常観察による主観的理解だけでなく、自己有用感尺度やC&S質問紙の客観的データからも児童の「自己有用感」や居心地のよさの数値の上昇がみられた。

このような取組を各教科や家庭においてもより広く横断的にすすめることで、自己有用感を高める指導の充実が可能であると考える。今後も、児童の「自己有用感」の変化に柔軟に応じながら、よりよい生徒指導や学級づくりを行っていきたい。